『コラボノート』による情報共有で、職員会議を削減

校務を効率化するグループウェアの導入により、教員の負担を軽減し、子どもに向き合う時間や学習指導を充実することが期待されている。
しかし、パソコンが苦手な教員でも扱えるわかりやすい操作性など、課題が多いのも事実。
こうしたなか、学習支援用ソフトウェアで培った優れたユーザビリティで教員の校務の情報化を促進する教職員用情報共有ツール『コラボノート for Teacher』が評判を呼んでいる。そこで、導入した学校現場の活用から、その魅力を紹介する。

教員すべてが ICT の効果を実感できるソフトウェア！

■教員が効果を実感できるものを

▲ 吉川達也主幹教諭(左)と原 直秀指導主幹

岡山県早島町立早島小学校（横山文朗校長）は、町内に幼、小、中学校が１校ずつという特性を生かし、子どもの成長を12年間で見据えた一貫教育を推進。小１プロブレムや中１ギャップなどの段差を解消する具体的な手立てを考えるとともに、「すべての子どもを学びから逃避させない」ための授業づくりや学級経営を行う研究を重ねている。

加えて、国のスクールニューディール構想により校内のＩＣＴ環境が劇的に変わったことを受け、それらを校務や授業などに生かす取り組みも積極的に行っている。

こうしたなか、同町教育委員会学校教育課の原　直秀指導主幹がＩＣＴ活用のポイントに挙げるのが、無理なく日常使うことができるソフトウェアの導入だ。「いかに授業で効果的に使えるか、どの程度校務の負担を軽減できるかなど、教員自身が身をもって実感しなければ、よい結果は生まれません。そこで、ソフトウェアの導入については、先進校への視察で学んだことも含め、学校の判断に任せました」と振り返る。

その上で、校務のICT化に向けて選択されたのが、教職員用情報共有ツール『コラボノートfor Teacher』だった。

『コラボノートfor　Teacher』は、“会議や討論でよく使用する「ホワイトボード」をネット上で共有する”というシンプルな発想で生まれたソフトウェア。ブラウザが見られる環境ならいつでも閲覧して情報を共有できるほか、直感的な操作で書き込み、画像やファイルの添付が行えるため、多忙な教員間の情報共有を確実に行えるツールとして評価が高まっている。

■双方向掲示板機能で情報を一元化

では、実際にどのように活用されているのか。同校のＩＣＴ活用を推進する吉川達也教諭は、「主に使っているのは掲示板機能です。職員は学校に来たら、先ずそこで今日の予定や早急な事案などを確認するのが日課になっています。これまで職員会議や終礼などで発言していた内容をここに書いておけば読んでもらえるので、会議の回数や時間を削減できるのが最大のメリットです」と話す。

事実、同校では月１回の職員会議と週２回の終礼以外はほとんどの会議がなくなったほか、資料の詳細についてはコラボノート上で確認してもらうことで、会議の時間を短縮させることにも成功している。

また、コラボノートにはスケジュール・施設予約機能もあるが、あえて利用せずに、掲示板に作成した予約表で行っているという。「何より、今必要な情報や状況を一目で把握できるのがいい。シンプルなチェックリストの共有だけで、作業の漏れやダブリがグっと減りました」と強調する。

このような教職員間の情報を共有するグループウェアは他にもたくさんあるが、全員が円滑に活用できている例は少ない。その理由を尋ねると、やはり、直感的に扱える操作性を挙げた。

▲ 双方向掲示板で情報を共有することで、会議の回数を削減。教室利用の予約も表に各自が記入している（画面右）

校務から授業へと広がる活用

▲タブレットＰＣを使った授業の様子

▶職員会議でも『コラボノート』を活用

コラボノートは、もともと小学生でも使えるソフトウェアとして開発された経緯があるため、特別なスキルがなくても操作に困らないのが特長。同校でも導入初期から研修などはほとんど行っていない。しかも、活用を促すために職員室の連絡ボードも撤去するなど徹底している。

「わからないことがあったら隣の教員に聞くなど、気軽に教え合える良さがある。その意味では教員同士のコミュニケーションの輪も広がったと思います」と吉川教諭。また、ふせんを貼ったり、ファイルを添付したりといった応用も簡単なので、活用を進めていくうちに、どうすれば伝えやすくなるかを工夫するようになっていると話した。

続けて原指導主幹も、「パソコンが苦手な教員でも使える、そんな人でもＩＣＴの効果が感じられるのがコラボノートの魅力です」と評価した。

■場所を選ばず活用できる

もう１つ、吉川教諭が効果を指摘するのが、場所を選ばずいつでも好きなときに情報にアクセスできるようになったことだ。「個人的には校務の仕事の残りなどが自宅でも可能になったことが大きいですね。スマホからでもアクセスできるし、ワードやエクセルデータも開ける。セキュリティ上もファイルに鍵が付けられるので、誰かに見られる心配もありません」

ちなみに、同校では子どもの個人情報や生活指導に関わることはコラボノートでは扱わない方針になっている。

さらに、コラボノートを活用することでペーパーレスにも貢献しているという。なぜなら、職員会議で提案する側は資料を印刷する手間が省けることに加え、受け取る側も必要なものだけプリントすればいいからだ。また、原指導主幹によれば、こうした職員会議も今までのように資料を配って説明するのではなく、コラボノートの画面を映しながら起案者が提案するカタチをとっているため、「教員のプレゼン能力も鍛えられる」と意外な発見もあったようだ。

■児童用のコラボノートも導入

一方、効果を実感したことで、平成24年度から６年生に一人１台のタブレットＰＣが配備されたことに併せ、児童用の『コラボノートforSchool』も導入された。子ども同士が教え合い学び合う教育が指向される中で、コラボノートは１つの課題に対して児童全員が一斉に書き込みできることや、自分のタブレットＰＣから他の児童の意見や活動が確認できるため、こうした協働の場に適しているからだ。

▲ 修学旅行の新聞づくりも『コラボノート』で

同校でも、さまざまな教科で児童の「探究」や「創造」を表現するツールとして活用している。「コラボノートは容易に何度でも修正ができるので、一度完成したものをお互いで確認しながら、より良いものに高めていくことができる。その分、自分の意見が出しやすいため、子どもの主体性を伸ばせると考えています」と吉川教諭。

実際、こうした効果は、修学旅行ホームページコンクールの受賞など、確かな成果となって表れている。

原指導主幹は「ＩＣＴを授業で使うことが目的でなく、あくまで効果的な手段の１つ。コラボノートもそんな便利な道具の１つであり、今後も先生方がいろいろなアイディアを出し合うことで、本校ならではの魅力ある活用が生まれてくるのでは」と期待した。

コミュニケーション創造企業
株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア
●商品の情報はホームページでもご覧いただけます。
http://www.collabonote.com/edu/
本社　香川県高松市浜ノ町８番24号　TEL（087）821-4520　フリーコール 0120-999-687（固定電話専用）